テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

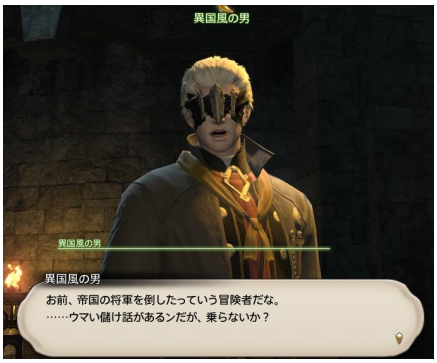
# FF14　備忘ログ(PATCH2.1)　クロニクルクエスト

## 古代の民の迷宮　編

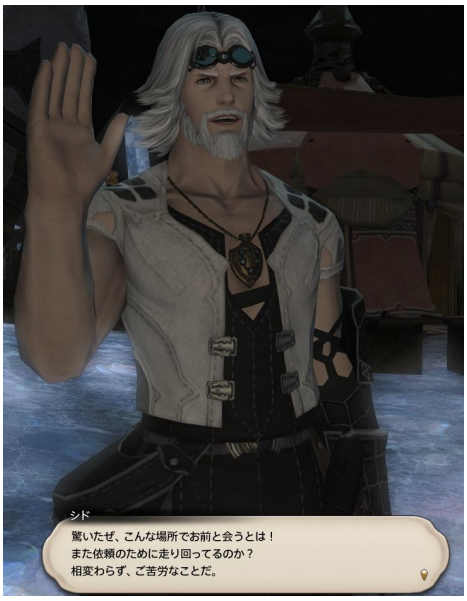
©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

# 古代アラグ文明の遺産

異国風の男 ： お前、帝国の将軍を倒したっていう冒険者だな。……ウマい儲け話があるンだが、乗らないか？
報酬は古代文明の遺産。かけてもらうのは、お前の命と腕前だ。……英雄なら、そういう仕事は慣れたもンだろ？
度胸と力に自信があれば、これほど儲かる話はないぜ。もちろん仲介料をせしめるつもりもない……
お前の儲けは、オレの儲けになるンだからな。
興味があるなら、今すぐ聖コイナク財団の調査地に行って、「ラムブルース」って男から話を聞きな。素晴らしい働きに期待してるぜ？




ラムブルース ： おや、君は……。噂に名高い冒険者が、なぜここへ？
異国風の男に紹介された……。儲け話とは、恐らく我々の新たな調査計画のことだな。しかし、あれはまだ外部に伝えていないはずだが……。
まあいい、協力の申し出は助かるよ。ただ、これは片手間にできるような計画ではない。
下手をすれば命を落とす危険もあるが……本当にやるか？
ありがたい。では同志として、改めて自己紹介をしよう。
私は聖コイナク財団の調査地を任された者……　シャーレアン出身のラムブルースだ。




？？？？ ： ……おい、まさか◇◇◇なのか？
シド ： 驚いたぜ、こんな場所でお前と会うとは！　また依頼のために走り回ってるのか？　相変わらず、ご苦労なことだ。

ラムブルース ： ほほう、ふたりは知り合いだったか。シド、彼女は我々の新たな計画に興味を持って、協力を申し出てくれたのだよ。

シド ： なに、本当か！　それは心強い……が、その顔を見る限り、計画の内容は聞かずに来たようだな。
この聖コイナク財団の任務は、大昔に滅びた「古代アラグ文明」を調査することだ。当然、新たな調査計画も、それに関係している。
古代文明には馴染みがないと思うだろうが、お前と無縁というわけでもない。アルテマウェポン……お前が倒したデカブツを覚えてるな？
あれはガレマール帝国の技術すら超えた代物。ネロの手により呼び覚まされた、古代アラグ文明の遺産だったというわけさ。
そしてこのモードゥナにも、いまだ手付かずの古代アラグ文明の遺産がある。……そう、「クリスタルタワー」だ。
アルテマウェポンを生み出した、古代の超文明……　その技術の結晶を放置しておくのは危険だ。
誰かに悪用される前に調査し、管理する必要がある。
先の戦いでそれを実感した俺は、聖コイナク財団に、新たな調査計画……　「クリスタルタワー」の実地調査を提案したんだ。
「クリスタルタワー」は数千年の間、地中に隠されていた。それが第七霊災の後に姿を現し、今では天を突くほど高くそびえ立っている。
あの中には、古代アラグ文明の叡智が眠っているはずだが、魔法障壁に阻まれ、侵入すらままならない……。
巨大な剣士像が並ぶその姿から、聖コイナク財団の連中は「八剣士の前庭」と呼んでいるが、どうやら、あれが第一の難関のようだ。
財団では飛空艇による接近も試みたが、「クリスタルタワー」の防衛機構に阻まれ、撃墜されてな……。
つまり、あの石像を破壊しない限り、先には進めないんだ。

ラムブルース ： ……我々は戦いには不慣れ。「クリスタルタワー」の全容を紐解くには、君のような冒険者の協力が不可欠だったのだ。
◆◆◆。困難な闘いが待ち受けているだろうが、我々と共に「クリスタルタワー」に挑んでほしい。

シド ： お前なら、そう言ってくれると思っていたぜ！　久しぶりの共同作戦だ、頼りにしてるぞ。

ラムブルース ： 君にはまず、実地調査の前準備を手伝ってもらいたい。突入前から難題に直面しているものでね……。
準備ができたら、声をかけてくれ。

ラムブルース ： 私たちの最初の目標は、「クリスタルタワー」の入口に到達することだ。しかし、それ以前に問題があってね。
入口の前には、4つの属性……火、水、風、土を利用した防衛機構が築かれているんだ。迂闊に近づけば、その攻撃でひとたまりもない。
だが、シドのもたらした観測技術によって、防衛機構と同じ属性……火、水、風、土のクリスタルで
その攻撃を反射できることが判明した。
無論、ただのクリスタルではなく、不純物のない「超高純度クリスタル」でなければならん。
例えば……蛮族たちが蛮神召喚に用いるような、ね。
そう、屈指の冒険者である君に頼みたいのは、各蛮族の拠点から「超高純度クリスタル」を集めることだ。
4つのクリスタルのうち、まずは2種を手に入れよう。ラノシアにあるコボルド軍の拠点「ウ・ガマロ武装鉱山」と
サハギン軍の拠点「サブサ産卵地」に向かってくれ。
それぞれの地でクリスタルを守護する司祭の討伐に参加し、水属性と土属性の「超高純度クリスタル」を調達するんだ。

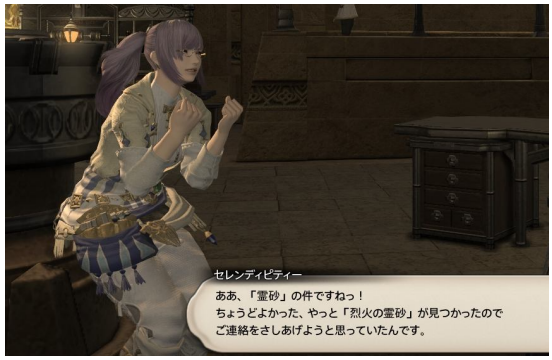
ラムブルース ： クリスタル調達の進捗を聞かせてくれ。蛮族拠点への潜入という難題だが、どうだろうか？
これが「超高純度クリスタル」か……！　確かに、調査地周辺では、これほどの輝きを見かけない。よくぞ回収してくれた！
引き続き、残りのクリスタルの調達を頼みたい。ザナラーンにあるアマルジャ軍の「ザハラク戦陣」および、
クルザスにあるイクサル軍の「ナタラン入植地」が標的だ。
それぞれの地でクリスタルを守護する司祭の討伐に参加し、火属性と風属性の「超高純度クリスタル」を調達してくれ。
良い報告に期待しているぞ。

ラムブルース ： 残りの「超高純度クリスタル」は調達できただろうか？
おお、4属性の超高純度クリスタルがそろったか……！　君には大変な苦労をかけてしまったね。
ありがとう、これで調査は次の一歩を踏み出せる。
……とはいえ、このクリスタルはまだ原石の状態。確実に防衛機構の攻撃を反射させるには、成形して磨き上げねばならん。
その作業にはまた、君の力を借りることになるだろう。防衛機構を打ち砕く「牙」を作るため、よろしく頼むぞ。

## 霊砂と未来を造る者

ラムブルース ： では、超高純度クリスタルの成形を……と言いたいのだが、属性の力を失わずに加工するには、
クリスタルと同じ属性を持った、特別な研磨剤が必要でな。
その研磨剤となる「霊砂」はあまりに希少で、磨かれる宝石よりも値が張る、などと言われる代物……。
4属性分そろえるのは容易ではない。
我々も、かねてからウルダハの彫金師ギルドに収集を要請しているのだが、いまだに吉報がない状況だ。
そこで君は彫金師ギルドに向かい、「霊砂」の調達のために力を貸してやってほしい。君の協力は、心強い追い風となるだろう。
この「霊砂の代金」を君に託す。ギルドマスターの「セレンディピティー」に渡し、1種類でも多くの「霊砂」を集めてきてくれ。

セレンディピティー ： はい、私に何かご用でしょうか？
ああ、「霊砂」の件ですねっ！　ちょうどよかった、やっと「烈火の霊砂」が見つかったので
ご連絡をさしあげようと思っていたんです。
残念ながら、ほかの属性の「霊砂」はありませんが……。入荷した「烈火の霊砂」は受付で預かっていますので、
代金はそちらへお願いします。
……あれっ、お客さんかな？




ビッグス ： 頼む、どうか譲ってくれ！　その「烈火の霊砂」が手に入らなかったら、新型飛空艇は設計からやり直しになっちまう！

彫金師ギルド受付 ジェマイム ： そう言われましても、先約がありますので。割り増しで買ってくださるなら、考えなくもないですが？

ビッグス ： くっ、さっきの額でも足りないと！？　どうする……もう開発の経費で下りないぞ……。また当面メシ抜きか……！？
◆◆◆！　お前、なんだってこんなところに！

彫金師ギルド受付 ジェマイム ： あら、ずいぶん重たそうな金袋……。景気のいいギルの音がしましたわ♪

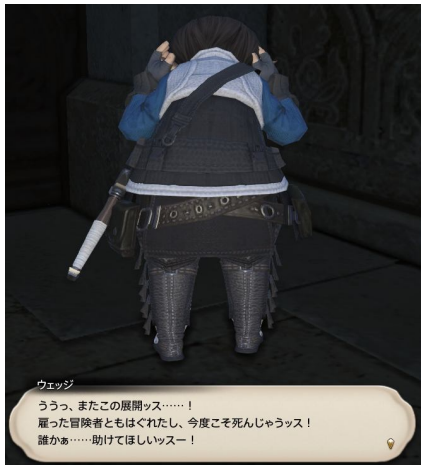
ビッグス ： ……もしかして、お前も「烈火の霊砂」を狙ってるのか？
ほう、古代アラグ文明の調査か……。親方とは少し前から別行動をとってるもんで、そんなことをしてるとは知らなかったぜ。
俺とウェッジは、新しい飛空艇の開発に挑んでるんだ。失敗もしたが、クリスタルを使った新型動力機関の作成まで
ようやく漕ぎつけてな。
以前、お前たちが偏属性クリスタルを用いてエンタープライズを強化したと聞いて、思いついた品さ。
あとは各属性の「霊砂」で部品を整えれば完成する……。
だから「烈火の霊砂」は譲れない。新しい時代のために、新しい技術を生み出したいんだ！

彫金師ギルド受付 ジェマイム ： コホン、意気込んでいるところに失礼ですが……。こちらの金袋は、先約した聖コイナク財団のものですわ。
……技師さんのお財布よりも重たいですし。

ビッグス ： ……さすが、お前と親方はぬかりないな。
わかった……この「烈火の霊砂」からは手を引こう。代わりといっちゃなんだが、
お前たちの新しい計画ってやつに、俺も参加させてくれ。
古代アラグ文明を調べられる機会なんて、そうないからな。せっかく掘り起こした技術を、親方だけの秘密にはしておけないぜ！

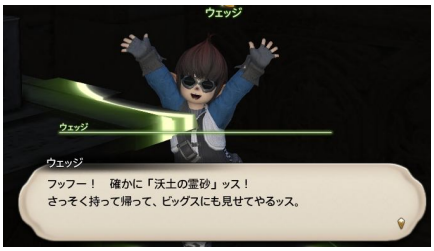
ビッグス ： さっきの話によると、お前はほかの属性の「霊砂」も集めなきゃならないんだろ？
だったら、あてのない入荷を待つよりも、自分の足で探した方が早いかもしれないぞ。……実は、ちょっとした手がかりがあるんだ。
なんでも、北ザナラーンにいる商人が、まれに「沃土の霊砂」を卸しているらしい。
詳しい情報は、ウェッジが調べてるところだ。
あいつも、お前に触発されたらしくてな。珍しく「ひとりでやるッス！」なんて張り切ってたんだ。
……まあ、上手くいってればいいんだが。
ウェッジは「キャンプ・ブルーフォグ」にいる。雇った冒険者が同行しているはずだから、現地で探して合流してくれ。

熟練の冒険者 ： なによ……同行者を探してるなら、ほかをあたってくれる？　こっちは酷い目にあって、ボロボロなの。
ララフェル族の技師に雇われて、「霊砂」とかいう品を扱う商人を訪ねたんだけど……
意外に高価なものらしくて、賊に奪われたっていうのよ。
取り戻すために根城へ忍び込んだけど、バレちゃってね。同行してた依頼人とも、逃げるときにはぐれちゃった……
って、アナタ依頼人の知り合いなの？
だ、だったらアナタが探しに行ってあげなさいよ！　依頼人はまだ、賊の根城……　「アマジナ霊銀山跡」の中かもしれないわ。




ウェッジ ： ううっ、またこの展開ッス……！　雇った冒険者ともはぐれたし、今度こそ死んじゃうッス！　誰かぁ……助けてほしいッスー！
……いや、あと少し頑張って逃げるだけッス。オイラだって、みんなに追いつくって決めたッス。
だから……よしッ！
ぴぎゃあああああああッ！？　ごめんなさいッス、もう来ないから許してほしい……ッス？
◆◆◆！　ど、どうしてここにいるッス！？　幻ッス？　仲間の危機を感知するセンサー搭載ッス！？
何はともあれ助かったッス……。オイラ、開発に使う「沃土の霊砂」を探しにきたッス。
危険な冒険だったけど、目的のブツは手に入れたッス！
……あれ？　「沃土の霊砂」がないッス？　た、大変ッス、逃げてる途中で落としたッス！　探しに行かないと……！
行ってくれるッス……？
フッフー！　持つべきものは仲間ッス……！　「沃土の霊砂」は、この敷地内に落ちてるはずッス。よろしく頼んだッス！

ウェッジ ： 「沃土の霊砂」はどうなったッス！？　無事に見つけ出せたッス！？
フッフー！　確かに「沃土の霊砂」ッス！　さっそく持って帰って、ビッグスにも見せてやるッス。
……え？　そっちも「沃土の霊砂」を探しにきたッス？　親方と一緒に、古代アラグ文明の研究を……ふむふむ。
そういうことなら、この「霊砂」は持っていくといいッス。飛空艇の開発には無限の可能性があるけど、
遺跡の調査にはこれが必要ッス！
代わりに、オイラも調査に協力させてもらうッス。社員をおいてひとりで調査なんて、親方は水臭いッス～！
じゃあ、そろそろここから脱出ッス。先にモードゥナに戻って、「霊砂」を納めてほしいッス！
なんだか勇気が出たし、オイラも全速力で逃げきるッス！



ラムブルース ： 「霊砂」は調達できたか？　まずは1、2種類だけでも、確保したいところだが……。
おお、「烈火の霊砂」と「沃土の霊砂」か！　恩に着るぞ、◆◆◆。君の協力を得てから、調査はますます軌道に乗った。
シド、さっそくクリスタルの成形を始めてくれ。一刻も早く、防衛機構を破る「牙」を作り出そう。

シド ： ああ、任された。こいつが揃えた素材に、俺も全力をかけて応えよう。
それにしても、よく「霊砂」を見つけてこられたな。お前の仕事は疑っちゃいないが、正直、もう少しくらいは手を焼くかと思ったぞ。
……ビッグスとウェッジが？
そうか……まったく、うちの社員は向上心が高くて困る。社長もおちおち踏んぞり返ってられないぜ、なぁ？
よし、俺たちも前進あるのみだ。あいつらが合流する前に、残りの「霊砂」を集めよう。……在り処はわかっていないのか？

ラムブルース ： 残念ながら……だが、手は打ってある。そろそろ成果が届いてもいい頃なのだが……。

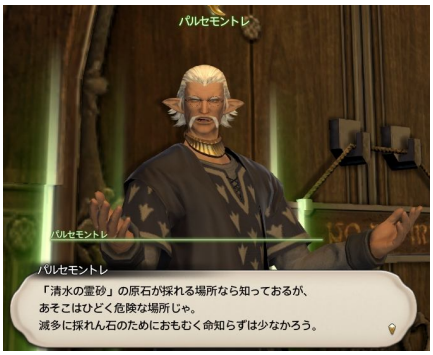
シド ： ……それにしては浮かない顔だな。しっかりしてくれよ、責任者。ワケアリなら、手遅れになる前に相談してくれ。

ラムブルース ： ああ……そうさせてもらおう。だが、ひとまずは2つの「霊砂」の入手を労おうじゃないか。◆◆◆に、多大なる感謝を。

# 霊砂と過去を記す者

ラムブルース ： ◆◆◆。残る「清水の霊砂」と「薫風の霊砂」の調達について、君に相談させてもらいたい。
実は、シャーレアン出身の仲間にも「霊砂」の回収を依頼しているのだが、いつまで経っても音沙汰がなくてね……。
あの人のことだから、連絡を怠っているだけだと思うが、面倒ごとに巻きこまれた可能性もある。
すまないが、君も引き続き「霊砂」を追ってほしい。
ひとまずは、残り2つの「霊砂」の原石が採れる黒衣森へ。グリダニアの商店街の顔役「パルセモントレ」に心当たりがないか聞いてくれ。

パルセモントレ ： 「霊砂」じゃと？　また珍しいものを……。ここはグリダニア随一の商店街じゃが、あれが売り出される光景は、何年も見ておらんな。
「清水の霊砂」の原石が採れる場所なら知っておるが、あそこはひどく危険な場所じゃ。
滅多に採れん石のためにおもむく命知らずは少なかろう。
それでも調べに行くというのか？　……ふむ、命知らずはここにおったか。
ならば清水の満ちる場所……「ウルズの恵み」に行け。原石は、屈強なホッグの縄張りにあるという。
せいぜい気をつけて探すことじゃな。




？？？？ ： 一足遅かったな、冒険者。そいつの縄張りを調べに来たんだろうが、無駄足だぜ？
姿なき声 ： あー、無理無理、そっからじゃオレは見えねーよ。今は大人しく話を聞くこった。
……そこにあった「清水の霊砂」の原石は、オレがいただいた。いくら探そうが、欠片も残っちゃいねーから諦めな。
代わりに「薫風の霊砂」のヒントをやるよ。……あれはイクサル族の手の内だ。
連中は「霊砂」を使ってクリスタルを清めるつもりらしい。
取る気があるなら早くしろよ？　ぐずぐずしてたら、そっちもオレがいただいていく。早い話が……競争だ！
北部森林にあるイクサル軍伐採所で「薫風の霊砂」を探せ。どんな奮闘を見せてくれるか、楽しみにしてるぜ！

姿なき声 ： 見てたぜ、あんたカッコいーな！　敵陣に颯爽と乗りこむ勇姿……　思わず見入って「薫風の霊砂」を取り損ねちまった。
……って、競争してたんだっけか。残念だがオレの負けだな。その「薫風の霊砂」は、あんたが持って帰るといい。
オレにとっちゃ、あんたの奮戦を拝めたことの方が、「霊砂」よりよっぽど収穫だしな。
せっかくだし、見物料のひとつでも払わせてくれよ。
ここから東の、ブラウドクリークにある広場に心ばかりの品を置いとくぜ。亡者どもに踏み潰される前に持ってけよ！

姿なき声 ： へへっ、ちょっとは驚いたか？　ウルズの恵みにあった石を砕いた「清水の霊砂」だ。遠慮なく、あんたの懐にしまってくれ。
別に、今までからかってたわけじゃないぜ。奮戦の見物料って言っただろ？
あんたにならやってもいい……そう思ったから譲るだけだ。
オレの仕事は、人の作る歴史を記録することでね。とりわけ、あんたみたいな強い奴の作る歴史が好きなのさ。
っつーことで、これからもカッコいー活躍してくれよ？　また会おうぜ、冒険者！

ラムブルース ： 残り2つの「霊砂」は見つかったか？　キミには手間をかけるが、どうにか調達してほしい。
おお、「薫風の霊砂」と「清水の霊砂」を確保したか！　助かった、さっそくシドに加工を始めてもらおう。

シド ： やったぞ、完成だ……！

ラムブルース ： おお、これが「クリスタルタワー」への路を拓くもの……　すなわち、防衛機構を打ち砕く「牙」だな！

シド ： ああ、◇◇◇のおかげで準備は整った。これで入口に立つことができる！

？？？？ ： 待ってください、親方ぁ～！

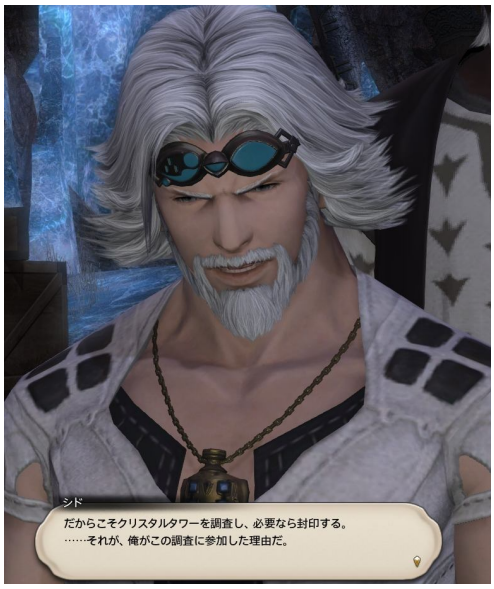
シド ： ビッグス！　ウェッジ！　来てくれたのか！

ビッグス ： へへ……古代アラグ文明の技術といえば、今の帝国ですら及ばない、神の域に達していたと聞きます。
この機会に学ばない手はないですよ。

シド ： お前たち……。その志は買うが、俺はここで得た知識を自分のものにするつもりはないんだ。
強すぎる力、行きすぎた技術は、世界に混乱を招く……。ガレマール帝国がアルテマウェポンを利用して、
三国に降伏を迫ったようにな。
ウェッジ、うちの社訓は何だ？

ウェッジ ： ハ、ハイッス！　ええっと……技術は自由のために……ッス？

シド ： ……そうだ。俺たちは決して、人の脅威となる技術を……　第二のアルテマウェポンを生み出してはいけない。
だからこそクリスタルタワーを調査し、必要なら封印する。……それが、俺がこの調査に参加した理由だ。




聞き覚えのある声 ： 面白いこと言うじゃねーか。人の歴史を動かしてきたのは、そういう強い意志なんだ。

ラムブルース ： あなたは……やっと帰ってきましたか。今まで連絡もよこさず、何をしていたのです。

聞き覚えのある声 ： ちゃんと「霊砂」を探してたぜ？　もっとも、面白い奴がいたから渡しちまったけどな！
よっ！　約束どおり……また会ったな、冒険者！

グ・ラハ・ティア ： オレの名前は、グ・ラハ・ティア。シャーレアンのバルデシオン委員会から来た。今回の調査、立ち合わせてもらうぜ！

ラムブルース ： ……こんな人だが、間違いなく私たちの目付役だ。仲間として迎えてあげてほしい。

グ・ラハ・ティア ： よっしゃ！　これでついに「ノア」始動ってことだな！

シド ： ……ノア？

グ・ラハ・ティア ： オレたち「クリスタルタワー調査団」の名前だよ。もう聖コイナク財団だけの任務じゃないだろ？
……かといって、ただの「調査団」じゃ歴史に残ったときカッコがつかねー。
だから、アラグ帝国時代の大魔道士「ノア」の名を借りた！

ウェッジ ： 大魔道士……なんかカッコいいッス！！

ラムブルース ： では、私たち「ノア」は、これより、防衛機構を破ってクリスタルタワーの調査に乗り出す。……準備はいいな？

ノアの仲間たち ： おうッ！

# 古代の民の迷宮

グ・ラハ・ティア ： よっしゃ！　準備も整ったことだし、クリスタルタワーに乗り込むぞ！
まずはあんたとオレ、それから技師連中でクリスタルタワーの入り口を守る防衛機構の突破を試みる。
ラムブルースは、この調査地に残って状況の統括だ。よって、現地での指示はオレが預かる。……ガラじゃねーけどな。
ってなわけで、南東にあるデカい扉の前で待機してくれ。その先が、待望のクリスタルタワーだぜ！

シド ： この扉の先がクリスタルタワーだ。いよいよだな……。

グ・ラハ・ティア ： シド、この先に立ち入ったことがあるのは、あんただけだ。先導を頼んだぜ。
何だ？　この気味わりぃ石像は……。

シド ： これが、俺たちの手を焼いてくれた防衛機構さ。侵入者から、奥の転送装置を守っているらしい。

グ・ラハ・ティア ： ……なるほど。こりゃあ、飛び込んだらひとたまりもねーや。

シド ： だが、この「牙」さえあれば攻撃を反射できるはずだ。……最初は俺が行こう。

ビッグス ： お、親方ッ！？　いきなりは危険すぎですぜ！

シド ： だからこそ、だ。自分で作ったものの成果くらい、自分で確かめないとな。
成功だッ……！

グ・ラハ・ティア ： オレたちも続くぞ。「牙」を掲げろ！

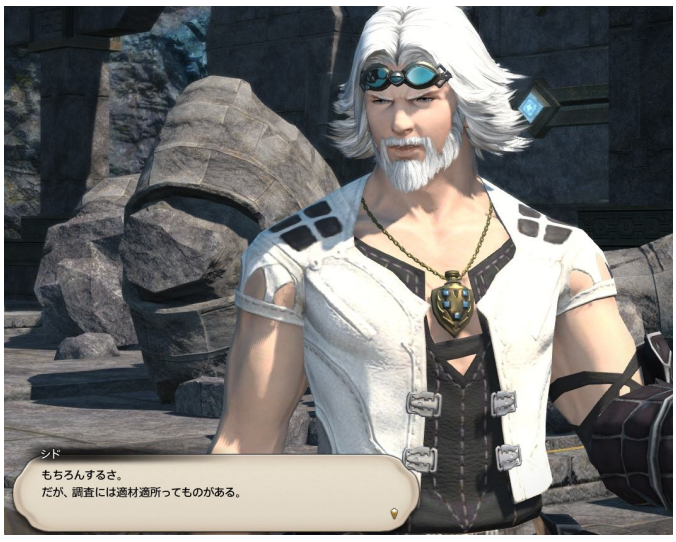
シド ： ……最後はお前に任せた。

ウェッジ ： フッフー！　防衛機構、突破ッス！

グ・ラハ・ティア ： さて……。今度こそ内部に乗りこむってわけだな。久々に腕が鳴るぜ！

シド ： それなんだが……提案がある。
クリスタルタワーの中に入るのは、◇◇◇が率いる、冒険者たちに任せたい。

グ・ラハ・ティア ： はぁっ！？　なんでだ？　クリスタルタワーを調査するんじゃねーの！？



シド ： もちろんするさ。だが、調査には適材適所ってものがある。
外壁にすら、これだけ強力な防衛機構があったんだ。内部に脅威が潜んでいたとして、突破できるのは歴戦の冒険者だけだろう。
この◇◇◇は、それにふさわしい実力の持ち主だ。
その間、俺たちは防衛機構の残骸を調査して、クリスタルタワーそのものの仕掛けを解き明かす必要がある。
そのためには……お前の知識がいるんだ。賢人、グ・ラハ・ティア。

グ・ラハ・ティア ： ……ったく、ズルイおっさんだぜ！
おい、◇◇◇。今回はひとまず塔を取りまく遺構……　通称「古代の民の迷宮」を掃討し、安全を確保してくれ。
終わったら、リンクシェルで連絡を頼む。ソッコーで駆けつけるからな！
そんじゃ頼んだぞ。相手が古代の文明だろうが関係ねー。思う存分、蹴散らしてやれ！

シド ： すまん、待たせたな！

グ・ラハ・ティア ： ハハッ、お手柄じゃねーか！　クリスタルタワー解明の歴史に、あんたの名前が刻まれたってわけだ。

シド ： それにしても、なんて広さだ……。さすがは栄華を極めた大帝国の名残だな。

グ・ラハ・ティア ： 委員会の調べによると、クリスタルタワーは「太陽の力」を集積するために築かれたらしい。
まったく、規模のでかい話だぜ。
それで、内部の防衛機構はどうだった？　あんたの様子を見る限り、かなりの激戦があったらしいが。
輝く曲刀を持った巨躯の男と戦っただと？　……なるほど、アラグ帝国革命の英雄「ティターン」か。

シド ： すごいな、それだけでわかるのか。

グ・ラハ・ティア ： 歴史には、それなりに詳しいモンでね。特にアラグ帝国については、知識と……因縁があるのさ。
まあ、古くせぇ文献の受け売りだよ。クリスタルタワーを守るのは、過去の偉人や英雄なんだと。
アラグの「魔科学」で蘇生され、強化されているらしい。

ビッグス ： 親方ぁ、あれを見てください！

シド ： あれは……クリスタルタワーの基部……？　いよいよ、噂に聞く「シルクスの塔」のお出ましか！
前門たる「古代の民の迷宮」の踏破は、ノアにとって掛けがえのない第一歩だな。よくやってくれたぜ、◇◇◇。

グ・ラハ・ティア ： ひとまず、聖コイナク財団の調査地に戻ろうぜ？　先が長いならなおさら、休息がてら作戦会議だ。……お疲れさん！

グ・ラハ・ティア ： おっ、待ってたぜ！　あんたの報告を聞かなきゃ、実地調査の結果はまとめられねーからな。
疲れてんだろうが、今後のこともある。一息ついたら、すぐに作戦会議を開くぞ。

# ノアの調査記録

グ・ラハ・ティア ： それじゃ、さっそく「ノア」の仲間を集めて、作戦会議を始めるとしようぜ！
……っと、こっから先はラムブルースの役目だな。全員帰還したことを、あんたから伝えてやってくれ。

ラムブルース ： おかえり、よくぞ無事で戻ってきてくれた。「古代の民の迷宮」を掃討したという報告は受けているぞ。
君が持ち帰った情報は、私の備考とあわせてクリスタルタワーの調査記録にまとめておく。
知りたいことがあったら、いつでも声をかけてくれ。
さて……さっそくだが、今回の調査について総括しよう。

ラムブルース ： 今回の調査で、我々ノアは転送装置に至る道を確保し、塔を取りまく「古代の民の迷宮」を踏破した。
内部を探索した◆◆◆君の証言によると、迷宮の防衛機構は生きており、アラグの衛士たちも活動していたという……。

シド ： やはり危惧していた通りか……。クリスタルタワーは地形の変動で現れただけじゃない。
何らかの理由で、数千年の時を経て「再起動」したんだ。
復活の真相は、恐らく塔の中……。封印するにしても、そいつを確かめておく必要があるな。

グ・ラハ・ティア ： そうは言っても、簡単にはいかねーぜ？　「古代の民の迷宮」の先には、どんな防衛機構が待ち構えてるやら。

ラムブルース ： ならば当面は、塔への侵入経路を確保するためにも、防衛機構の解析を最優先としよう。……シド、引き続き君に頼めるかい？

シド ： ああ、任せてくれ。

ウェッジ ： オイラたちも手伝うッス！

ビッグス ： 親方が社訓のために戦うってんだ。これはもう、ガーロンド・アイアンワークスの総力を上げて協力させてもらいますよ。

シド ： お前たち……。ああ、頼りにしてるぞ！

グ・ラハ・ティア ： それじゃ、オレはしばらく旅に出るぜ。久々に修行して、次こそクリスタルタワーに乗り込むんだ。
やっぱ武勇伝は生で見ないとな！

ラムブルース ： あなたもシドを手伝うのです、グ・ラハ・ティア。それとも、今までの勝手を委員会に報告しましょうか？

グ・ラハ・ティア ： ……オレの方がえらいっつーの。
まぁ、何にせよ、あんたの代わりはできねーんだ。◇◇◇、しばらく出番はなさそうだが、ナマクラになるなよ？
次回の調査も必ず成功させようぜ。そしていつか、アラグ帝国にまつわるすべての歴史を暴く。
「ノア」として……絶対にな。

ラムブルース ： では、今回の会議はここまで。次回の調査に備え、それぞれ自分の役目を果たしてくれ。……解散！

異国風の男 ： こりゃあ派手に壊したもんだ。おかげさまで、正々堂々と中に入れる。
冒険者ってのは、なかなか使い勝手がいいじゃないか。
オレたちにとっちゃ、光の戦士様っていうよりは、略奪者様って感じだけどな。
……まぁ、お前が頼りたくなるのもわかったぜ。
古代アラグ文明の遺産……か。
塔の上から検出された未知の力は、あのアルテマウエポンと同等……いや、それ以上。
くく……面白そうな「玩具」を見つけたぜ。

ネロ ： ……すべてを奪われたと思っていたが、悪運だけはオレのもんらしい。
オレの野望は尽きない……この夢は終わらせない……。付き合ってくれるよなぁ、ガーロンドォ……！